

僕は後悔していない

誰もいない。

「本当に来るだろうか、まさか、来ないので
不安だった。

じっと、土手に立って、遠くを見る。

駅に戻り、人のまばらなフォームに
あたり、時計をみつめながら、
じっと、ベンチに座り、待つ。

九時前だ。

流れ込む電車に目を見張る。

乗っていない。

九時すぎ。
だめだ。

もう来ないんじゃないだろうか。

自分の悄然たる姿を、誰が慰める。

九時半。
来ない。

もう、少し、待とう。
次ぎの各停まで。